男女共同参画情報紙
わたしたちの望む社会へ

とらいあんぐる

-TRYあんぐる-

2011
第16号

皆さん，男女共同参画という言葉をご存知ですか。
薩摩川内市では，平成17年4月「男女共同参画基本条例」を施行しました。この情報紙は，市民の皆さんと意見の交換をしながら一緒に「男女共同参画社会」を築くことを目標にしています。

今号の特集記事は…

特集「備える」

～災害を生き延び、復興を目指す中で、女性の視点を忘れない～

見聞 女性50人委員会 男女共同参画講座

8月18日午後の全体研修会では、石田尾先生による講義がありました。

大学教授ということでしたので、緊張して臨みましたが、先生は、マイクを持って通路まで降りられたり、ご家族の話などをされたりして、終始にこやかに話してくださいました。

男女共同参画講座の様子

石田尾先生 語録

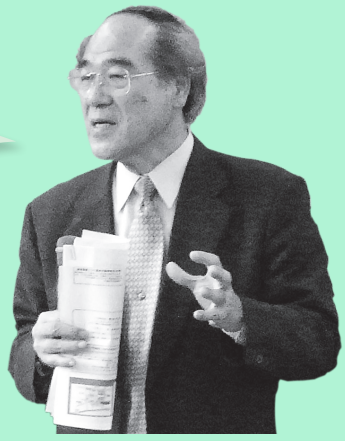
一、「参画」は、参加や参集とは異なり、「自らが意思決定の過程に加わること」。

一、持続可能な地域力のある社会を形成するためには、①学ぶのが好きで、②仲間作りが上手、そして③持続がうまい女性の参画が今後も不可欠である。

一、できることを、できる人が、できる時に、できるやり方で、できるだけする・・・と、続けることができる。

一、人生の決定権は自分にある。

一、性別に関わりなく、自分の能力を発揮できる地域社会、それぞれの生き方の選択が尊重される社会を目指したい。



石田尾 博夫 氏（いしだお ひろお）

・1948年鹿児島県生まれ
・九州大学大学院博士課程修了
（経済学博士 / 芸術工学博士）
・鹿児島県男女共同参画審議会会長
・第一工業大学 / 日本経済大学教授
※ 2011年度男女共同参画社会づくり功労者内閣総理大臣表彰を受けられました。

女性50人委員会の一人として、自分達の置かれている立場を客観的に見ることができました。いったい何をすれば良いのか、具体的な手掛かりを教えていただいたようにも思います。自分らしく生きていける社会を築いていくためにも、ぜひ学び続けていきたいと思います。

特集「備える」

～災害を生き延び、復興を目指す中で、女性の視点を忘れない～

今だに余震の続く東北地方。十四年前にM6.4の地震に襲われた鹿児島。今回の東日本大震災から、いつ起こるかわからない災害に、普段から備える心準備が必要だと強く感じている人が多いのではないでしょうか。

「震災」から六ヶ月余…

3月11日の東日本大震災から六ヶ月余が経ちました。復興に向けての数々のニュースを伝えるテレビを消すと、いつもと変わることのない日常を過ごしている自分がいます。

義援金や支援物資を送る形で援助を続ける場合もあるでしょう。自分自身が東北へ行かなくても、知り合い、親戚、友だちが、仕事やボランティアで行ってきた、またこれから行く人もいるかもしれません。

台風、大雨、地震、火山爆発…と自然災害と隣り合わせに住んでいる私たちの街鹿児島では、今回の震災を機に、今一度防災について考えたり、確認したりすることが必要だと思われます。

東北の復興に当り、地域力についても言われています。地元の強い結びつきの中で、励ましあい、助け合って生き延び、今地域復興に向けて、日々活動している方々も多いようです。

そんな中で注意すべきは、女性の視点、女性への配慮について、決して忘れてはいけない、ということです。

今回は、まず、東北へ行ってこられた方々のレポートを参考に、女性の生の声をご紹介します。

「口紅」

壊れた自宅の瓦礫をひっくり返していたら、口紅が出てきた。近くに落ちていた御菓子の缶の裏を鏡代わりに、久しぶりに、口紅を引いた。生きる勇気が湧いてきた。

○　化粧をしないと人前に出られない、と言う人もいます。化粧は、人と接する力を発揮する大きな助けになります。避難所で、フェイスマッサージや化粧をできる環境なども大切です。

「更衣室」など

初めは避難所に更衣室が無く、着替えもままならなかった。授乳室も無く、授乳中の母親が、ストレスで母乳が出なくなってしまったケースもある。

○　女性の悩みの声を現場ですぐに拾ってもらうシステムが無く、不便な思いをし、我慢に我慢をし続ける状況が続いたようです。また、行政や人任せでは、状況が改善せず、人が集まって声を上げていくことで前進できたそうです。

「言い出しにくい」生活用品

避難所で、下着のことなど、不足していても、男性職員にはいい出せなくて困った。

○　実生活の問題の中には、女性同士でなければ、話しにくいことも確かに有ります。避難所の運営に、女性がかかわる体制作りが必要ですね。

「女性は弱者ではない。」

阪神・淡路大震災での死者の数が、男性より女性の方が多かった、という事実が有ります。これは、避難する時の体力的な理由や独り暮らしの女性な

●●● 避難所レポート ●●●

知っておきたい避難所生活の現状

プライバシーが保たれない、守れない。

- 段ボールやアクリル板で仕切っているだけ。
- 一人は怖い。(性犯罪が増えると聞く)
- 周囲に常に他人の存在がある為、緊張状態が続く(男女とも)。一人になれない。
- 物干し場は女性用エリアが準備されていたが、盗難や紛失が起きている。
- 洗顔や化粧がトイレでしか出来ない(洗面所やドレッサーがない)。
- 仮設のお風呂(公衆浴場状態)は利用時間に制限はあるが設けられていた。各避難所から入浴に来るため、髪を拭きながらだったり、お風呂あがり後のラフな格好で出て来る姿をよく見かけた。他人には見られたくない姿なのでは。
- 街中では普通と思われる涼しげな夏の服装(ワンピース、ノースリーブ、シースルー)だと、中高年の女性や男性の視線が集まっていた。
- オナラや便を我慢し、便秘に悩む人は男女問わず多い。
- 尿の回数を減らすために、自分で水分制限をして体調不良や便秘がちになる。
- 子ども用の量や大きさまで配慮された食事や離乳食は準備出来ない。
- 子どもがぐずって泣くと周囲へ迷惑を掛けるので、いつも気が抜けない。
- 授乳室は設けられていない。
- 子どもの遊具や絵本が準備されている避難所と準備されていない避難所があった。
- 避難所に配置される男性職員には、下着のサイズや多少の好みなど、恥ずかしくて要望を言い出せない。

みんなで共同作業をしましょう。

- ●食事の準備や片づけ
- ●物資の配布等
- ●共有スペースやトイレの掃除
- ●ゴミの処理
- ●行政との連絡
- ●防犯(見回り)
- ●イベントの企画及び開催
- ●家の後片づけなどの復旧作業 など

共同作業のポイント

- ●個人の能力・才能・特技を生かしましょう。
- ●一つの活動(作業)において、性別が偏らず、男女がともに活躍できるようにしましょう。
- ●みんなが公平に作業を行えるようローテーションを組みましょう。
- ●日中、夜間、休日等いろいろな時間帯に対応できるようにしましょう。

ど経済的な理由で、古い家に住んでいて、下敷きになったことなどが、原因のようです。

しかし、仮設住宅になってからの孤独死の七割が男性だったということをご存知でしょうか。

女性は、生活者、消費者としての生きるノウハウを持ち、地域のコミュニティ、人脈を持っています。おしゃべりすることで、情報や気持ちを共有することができます。それは復興において大きな力となるのですが、災害直後の意思決定の場に女性がいないことが多いため、女性の声が活用されないというのが実情のようです。

町全体が消失し、十年かけて復興した神戸市長田町商店街の商店主の一人の言葉です。「気持ちが分かって、しゃべることができるために、地域が固まってやることが大切。地域とのつながりが途絶えた孤独死が、十六年経った今も毎年五十人いる…」

……困った時、人に言いにくいときどうしますか。

それこそ、緊急時だからと急にできるようになるわけではありません。

私たちの日常の営みの状態が、何かあったときにも関係してきます。

友だちはいますか。普段から近所や地域の人と声を交わしていますか。困った時、すぐに声をかけることのできる人がいますか。

「遠くの親類より近くの他人」と言うことわざもあります。

行政もこれから災害時のマニュアルを見直したりするようです。私たち市民も、それぞれが、日頃から、何かがあっても、お互いに手をとりあえる関係作りに少し気を使ってみてはどうでしょうか。

また、女性の声、女性の視点から、男性にはわかりにくいことや見えにくいことについて気付いたら、日頃から声に出して言ってみましょう。

何があっても壊れない街は、私たちの日頃にかかっていると、東北の話を聞いて思いました。（編集員）

☆ 情報提供

北島千秋さん（東北在住）

他、東北へ援助に行かれた保健師の方々など。

とらいあんぐるニュース

第四期 女性50人委員会が発足しました。

今期の会長の小島恵里さんに伺いました。小島さんは、薩摩川内市男女共同参画審議会委員もされ、50人委員会は二期目から参加しているそうです。

● 女性50人委員会について簡単に教えてください。

女性の管理職、審議会委員などの登用率が今だ低く、女性の声が上がりにくい現状です。４つの分科会に分かれ、それぞれのテーマ毎に話し合ったり、学習したりして、市政について男女共同参画の視点から具体的な政策提言をすることになっています。

● 今までやって来られて良かったことは何ですか。

同じ分科会の仲間の人たちと話し合いや具体的な行動を共にすることを通して、市政に対する意識が変わりました。以前は漠然と感じるだけでしたが今は、〝市政に積極的に参画しよう〟という姿勢になりました。

● 今回の50人委員会に期待することは何ですか。

私たちの生活は、もちろん国の大きな枠、そして県、市などの枠に支えられて成り立っています。人任せではなく、積極的に参画することで、私たちも声を上げていくことができる、ということを今一度確認しながら、新しいメンバーからの違った視点から議論を深めていけたらいいなと思っています。そして、私たちの生活がより質の高いものになるような一端を担えるように期待しています。皆様のご協力お願いします。

今年度は30回ほどの分科会において学習し、来年9月までに提言としてまとめる予定になっています。異なる世代・地域・背景の方々が協議することで、新たな気づきが生まれ視野が広がることも期待されます。今までの女性50人委員会の取り組みは、薩摩川内市のHPをごらんください！

● 生活環境分科会

グリーン作戦の一環として市花かのこゆりの栽培や、街中のプランター管理について調査中です。

● 産業経済分科会

観光資源の活用や地産地消を目指してのアィディアなどを研究中です。

● 保健福祉分科会

子育て支援に関する事業の内容や、高齢者への訪問給食制度、緊急通報装置設置状況等、関係機関からの説明を受け学習中です。

● 教育文化分科会

学童保育の現状や生涯学習の講座あれこれや家庭教育学級の内容など、関係課の説明を受けて更に学習を深めていきます。

平成23年度

男女共同参画フォーラム開催決定！

とき 平成23年11月27日(日) 12時50分より

ところ 薩摩川内市国際交流センター

講師 山崎 大地さん（国際宇宙サービス代表）

2010年4月スペースシャトルディスカバリー号でフライトした女性宇宙飛行士、山崎直子さんの夫。

『とらいあんぐる』とは…

参画（さんかく）と三角（さんかく）を掛けてつけました。「市民・行政・地域」「教師・児童生徒・保護者」「上司・部下・自分」etc…。いろいろな社会において，常に三者（三角）の関係はとても大切です。この情報誌を発行するにあたって，それぞれの「さんかく」を念頭におき，お互いがトライアングルのように響きあいながら，理解し合えるような社会を築けるよう願いを込めました。

information インフォメーション

この情報紙に関するご意見、ご感想、取り上げて欲しいことなどありましたら、ご連絡ください。

●編集／男女共同参画情報紙「とらいあんぐる」編集員会 ●発行／〒895-8650 薩摩川内市神田町3番22号薩摩川内市役所 企画政策部 コミュニティ課 男女共同参画グループ
電話 23-5111（内線4621） FAX 20-5570 Eメール sho-gender@city.satsumasendai.lg.jp